

令和7年11月25日

浜田市議会議長 澁谷 幹雄 様

議員名 芦谷 英夫

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

- 1、視 察 名 石見神楽創作舞台「魂（みたま）神楽モモチヨロズヨ」
- 2、視察事項 島根県芸術文化センター・グラントワで上演された創作舞台
- 3、視察の目的（市政との関連など）石見神楽をいかした地域振興策は喫緊の課題であり、石見神楽の新たな展開など、先進例の調査研究を行い施策の推進を図る。
- 4、日 時 令和7年11月23日（日）14時～16時
- 5、経 費 チケット代 6,816円（手数料含む）
ガソリン代（浜田～益田往復）2,000円
- 6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など 石見神楽保存伝承拠点基本構想を策定中、石見神楽を創り出したまちを自認する浜田市、大阪・関西万博に出演し全国的に注目される中、神楽を観る人にとってどうか、どう神楽を観せるか、市民の理解を深め地域のイメージアップにつながり、観光客が増え地域の賑わいをどうつくるか。
- 7、視察内容 別紙のとおり



石見神楽創作舞台「魂（みたま）神楽モモチヨロズヨ」

令和7年11月25日

- 1 日 時 令和7年11月23日（日）14時～16時
- 2 会 場 益田市（島根県芸術文化センター・グラントワ）
- 3 概 要

- ① 石見神楽創作舞台は、歌舞伎脚本家・演出家の戸部和久氏が作・演出を担当し、神楽は益田市の若手精鋭チーム石見神楽団体「万雷」を中心とする34人が舞台に立ち、小学2年生、高校生、専門学生なども参加し、歌手小林幸子さんは、神楽の切り替えや新たな演目の始まりなどで4曲を歌われた。入場者は約1,100人。
- ② 公演は石見神楽「国受け」から始まり、大国主命の子神 建御名方命のその後の物語を描き出し、「紅葉狩」、数匹の猿が出る「頼政」、最後は「大蛇」で8頭が出て退治され、小林幸子さんは歌いながら大蛇に酒を飲ませるなど、新しい演出が取り入れられた。
- ③ 大蛇には発光ダイオード（LED）を使った「光る大蛇」の照明演出もあり、舞台には華やかな光の映像も写し出され、また暗い舞台に幻想的な神楽が演じられ、伝統と斬新さが融合された迫力ある新感覚の演出、進化した石見神楽の圧巻の創作舞台が繰り広げられた。
- ④ 公演は歌舞伎の演出家の脚本と演出、人形浄瑠璃の語り「太夫」と三味線の伴奏が加わり、神楽の大太鼓、締太鼓、手拍子、笛、鳴物などとあわせて、異色で異次元の舞台となり、これまでにない演出により石見神楽のこれからの可能性、変化や進化を追求している。
- ⑤ 「万雷」は一般社団法人MASUDA カグラボが主宰する若手の有志による舞手集団で、令和2年に石見神楽の保存と活用に向けた将来ビジョン策定を目的として結成され、3年には提言書を市に提出、同年5月には「石見神楽の日」を制定し、第1回「MASUDA 石見神楽 WEEK」を開催、5年には社団法人化し7年7月には大阪・関西万博で公演している。

4 所 感

- ① 一般社団法人MASUDA カグラボの母体、推進体制、財政基盤などは調査中であるが、「万雷」の例のように石見神楽を中心として、他の芸能とコラボし新しい文化を創造する取組は、斬新で新たな発展、郷土芸能をいかした地域活性化が期待できる。
- ② 浜田市は、石見神楽保存伝承拠点基本構想を策定中で、それには「石見神楽のすべてがわかる、浜田市民が誇れる拠点」とし、収集と保存、調査と研究、展示、教育と普及、交流などの機能を示しているが、益田市の例のようにその推進体制が必要である。
- ③ 「石見神楽を創り出したまち」を自認する浜田市として、保存や伝承が全面に出ており、神楽を観る人にとってどうか、どう神楽を観せるか、このことを打ち出し、その上で神楽文化を理解する、郷土愛を育てる、それを進める施策と拠点が必要である。
- ④ 石見神楽が大阪・関西万博に出演し全国的に注目される中、石見神楽をより多くの人に観てもらい、それも外の人に、そして神楽の物語性や神話のこと、文化面や歴史面など石見神楽を観てそれがどう理解され、地域イメージがアップし人を呼び起こし、観光客が増え地域の賑わいがつくり出される政策が必要である。 —以上—